

風の音、鳥の声、川のせせらぎ……
久米島の魅力は海だけでは無い。
森の中にはクメジマポタルやキクサトサワヘビなど、
久米島だけに生息する
貴重な生物たちも様々している。

「トホー、ホー、ホタル来い、こっちは水は甘いぞ、あっちの水は苦いぞ」という童話にもあるように、ホタルは水辺に飛ぶものだと思っていれば、日本にも53種類(亜種を含め)のホタルのなかで、幼虫期を水の中で過ごす水生ホタルは3種類だけだそう。おなじみのゲンジボタル、ヘイケボタル、そしてクメジマポタル。クメジマポタルは、久米島だけに生息するホタルで、沖縄県の天然記念物に指定されている。水生ホタルは、世界的に見ても少ないので、ホタルに稀少種らしい。それも発見されたのは、1993年。少し前のことだ。

「知らなかったね、娘よ」
振り返っても娘はいなかった。スタッフの方の説明に聞き入る母をよそに、館内で倒れているカエルやエビとにらめっこ。

ここは「久米島ホタル館」。島の幹線道路から少し山側に入っただけの場所なだけに、「海」が視界から消えて「山」と「森」の中。山小屋風の建物の脇に流れる浦地川と有名な白瀬川は、クメジマポタルの光の乱舞が、

久米島

ホタル館

でネイチャーゲーム



クメジマポタルやキクサトサワヘビなど

ホタル館の館長・佐藤文彦(右)さんとスタッフの飯山伸子さん(左)。ネイチャーゲームは、佐藤美菜さん(中)が担当。



見られるベストスポットなのだ。クメジマポタルが見られるのは、4月上旬から5月中旬。でも、ホタル館のお楽しみは、ホタルだけではなく、生き物好きの少年がそのまま専門家になった。そう、佐藤文彦館長やスタッフが、久米島の生き物ガイドをしてくれる。

「よし、じゃ、ネイチャーゲームをやりますよか」
愉快なお誘いに乗って浦地川に降りていく遊歩道に向かう母と娘。

「では、目をぶらぶらと聞かせてくる音を数えましょう」
ええっ? 何でか、それ。

母は戸惑うけれど、娘は素直。
「いち、に、さん……」と数えていく。そうね、風の音でしょ、川のせせらぎ、鳥の声も何種類かあるなあ。目をぶらぶらだけで、今の今まで見えた景色が違ったものに感じられてくる。

「はい、じゃ、次は目を開けて、色探しましょう。最初は黒!」
あわてて探した所は、母は人の影。娘は髪の毛でした。や、